

デジタルテレビ電話・会議相互接続試験実施要領

- 端末編 -

HATS推進会議
(高度通信システム相互接続推進会議)
マルチメディア通信相互接続試験実施連絡会

TTC-G-007-V1

デジタルテレビ電話・会議
相互接続試験実施ガイドライン

— 端末編 —

保存版

社団法人

電信電話技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

TTC相互接続試験実施ガイドライン

デジタルテレビ電話・会議 相互接続試験実施ガイドライン — 端末編 —

1 9 9 4

TTC相互接続試験実施ガイドライン改版履歴

(デジタルテレビ電話・会議相互接続試験実施ガイドライン ー端末編ー)

版 数	制 定 日	改 版 内 容
第1版	1994年 4月 7日	制 定

目 次

第1章	背景及び目的	1
1.1	背景	1
1.2	目的	2
1.3	相互接続試験の範囲	2
第2章	試験の前提条件	3
2.1	準拠すべき標準	3
2.2	網へ接続するための条件	5
2.3	事前確認試験	5
第3章	相互接続試験の実施方法	6
3.1	試験環境	6
3.2	実施方法	6
3.3	試験手順	7
3.4	試験結果のとりまとめ	7
3.5	試験項目	7
3.6	オプション試験項目（参考）	9
第4章	結果の取扱と今後の検討課題	11
4.1	結果の取扱	11
4.2	今後の検討課題	11
別紙	1. チェックシート	12
付録	1. ビットアサイン	13
	2. 試験に供する端末の能力に関するアンケート用紙	16
	3. 第 回 デジタルテレビ電話・会議相互接続試験供試端末一覧表	17
	4. 試験時間と対向機種	18

第1章 背景及び目的

1.1 背景

動画像によるテレビ電話・会議システムはISDNの有効なアプリケーションとして注目されており、我が国をはじめ各国で開発が進められている。しかし、これまでのシステムは画像符号化方式や装置間の接続方式等が標準化されていなかったため、異なるシステム間では、相互通信を行うことが不可能であった。

そこで、国際電信電話諮問委員会（CCITT；現在ITU-T）において動画像符号化の方式や接続手順等の標準化作業が進められ、1990年12月に勧告された。一方、国内では、当（社）電信電話技術委員会（TTC）においてITU-Tに準拠した標準化作業が進められ、ITU-T勧告とほぼ同時期に国内標準を制定すると共に、1992年9月に「デジタルテレビ電話・会議相互接続実施ガイドライン（TTC-G-001-V1）」を制定し、現在までの相互接続試験に供している。

その後、1992年11月には16kbit/s音声符号化方式、1993年4月にはJT-H320関連の5件の標準が改訂され、多地点接続関連の3件が、新たにTTC標準として加えられた。さらには、オーディオビジュアル・サービスを規定する標準として4件があらたに制定された。セキュリティに関しては機密保持システムが標準化され、鍵管理システムが今後の標準化の課題として残されている。また、複数のB又はH0の統合についても課題が残されている。

この度、「ガイドライン（TTC-G-001-V1）」制定後のこのような標準化の進展に対応して見直すこととなったが、これらの技術項目のそれぞれが今後ITU-TおよびTTCにおいて個々に改版される可能性があり、全てを1つのガイドラインにて網羅することは将来において混乱を生じる原因となりかねないことを考慮して、「ガイドライン（TTC-G-001-V1）」はそのまま存続させ、新たにテレビ電話・会議システムの端末的側面を主たる対象とした「ガイドライン（端末編）」を制定することとした。他の技術項目については、必要に応じて各々に対する「ガイドライン（TTC-G-XXX-VX）」を制定する予定である。

今後、標準の制定及びISDNサービスの拡大とあいまって、デジタルテレビ電話・会議システムの普及が飛躍的に進展するものと予想されるが、その健全な発展と普及を図るためには、標準に基づいて開発されたシステム間の相互接続に関するさまざまな課題を順次解決し、その成果を標準にフィードバックすることが重要である。

1.2 目的

上記標準に基づく製品が市場に広まりつつある状況の中で、各ユーザにおける円滑なデジタルテレビ電話・会議システムの利用を促進するためには、各製品間での相互接続性の確保が必要不可欠である。しかしながら、今後予想される製品機能の多様化により標準に準拠し製造されている製品同士でも相互接続性が必ずしも確保されていない場合があり、相互接続試験の実施による接続性の確認が必要となる。

本「ガイドライン（端末編）」は、上記の状況のなかで各社の製造する端末間での相互接続性を確保するために実施すべき相互接続試験の内容、手順について規定するものである。今後、本「ガイドライン」に基づき、通信機械工業会が事務局を務める「デジタルテレビ電話・会議相互接続試験実施連絡会」等において、具体的な相互接続試験が実施され、各製品間の相互接続性の確保が図られるが、その結果、我が国におけるデジタルテレビ電話・会議の本格的な展開に向けた環境の整備が進展するとともに、標準自体の実効性も高められ、新たな標準を策定していく場合の参考として活用されることが期待される。

1.3 相互接続試験の範囲

既制定の「ガイドライン（TTC-G-001-V1）」では、端末Type X b 4, X b 5および、端末Type Y 1（オプション）を対象とした。

本「ガイドライン（TTC-G-007-V1）」の相互接続試験の対象は、TTCにおいて制定された標準仕様JT-H320、H230、H261、H242、H221に基づいた端末Type X a, X b 1, X b 2/3, X b 4, X b 5および端末Type Y 1相当を範囲とする。

この範囲は、上記標準仕様の全てを包含するものではなく、實際上最も必要な相互接続性の試験実施について規定するものであり、今後必要に応じて随時充足していくものである。

第2章 試験の前提条件

2.1 準拠すべき標準

図2.1にJT-H320のテレビ電話・会議システムを示す。本システムの相互接続に関して準拠すべき代表的標準を以下に示す。

2.1.1 オーディオビジュアルテレサービス関連

- (1) JT-H320 狭帯域テレビ電話・会議システムとその端末装置
- (2) JT-H261 p×64 kbit/sオーディオビジュアルサービス用ビデオ符号化方式
- (3) JT-H242 1920 kbit/sまでのデジタルチャネルを使用したオーディオビジュアル端末間の通信を設定する方式
- (4) JT-H230 オーディオビジュアルシステムのためのフレーム同期の制御信号と通知信号
- (5) JT-H221 オーディオビジュアルテレサービスにおける64 kbit/sから1920 kbit/sチャネルのフレーム構成
- (6) JT-H231* 2 Mbit/s までのデジタルチャネルを使用したオーディオビジュアルシステムのための多地点会議制御ユニット
- (7) JT-H243* 2 Mbit/s までのデジタルチャネルを使用した3個以上のオーディオビジュアル端末間の通信確立手順
- (8) JT-H331* 同報型オーディオビジュアル多地点間通信システムとその端末装置
- (9) JT-H233* オーディオビジュアル・サービスのための機密保持システム

* 第2版においては使用しない。

2.1.2 オーディオコーデック関連

- (1) JT-G711 64 kbit/s PCM (μ 則)
- (2) JT-G722 64 kbit/s以下の7 kHz オーディオ符号化方式
- (3) JT-G725** 64 kbit/s以下の7 kHz オーディオコーデックの適用に関するシステムの側面

- (4) JT-G728 低遅延符号励振線形予測 (LD-CELP) を用いた 16 kbit/s 音声符号化方式

**直接には使用しない。

2.1.3 ユーザ・網インターフェース関連

- (1) JT-I411 ISDN ユーザ・網インターフェース規定点及びインターフェース構造
- (2) JT-I430 ISDN 基本ユーザ・網インターフェース第1層仕様
- (3) JT-I431 ISDN 1次群速度ユーザ・網インターフェース第1層仕様
(注1)
- (4) JT-Q920 ISDN ユーザ・網インターフェース第2層概要
- (5) JT-Q921 ISDN ユーザ・網インターフェース第2層仕様
- (6) JT-Q930 ISDN ユーザ・網インターフェース第3層概要
- (7) JT-Q931 ISDN ユーザ・網インターフェース第3層仕様

(注1) 端末 Type Y1 の場合

JT-H320

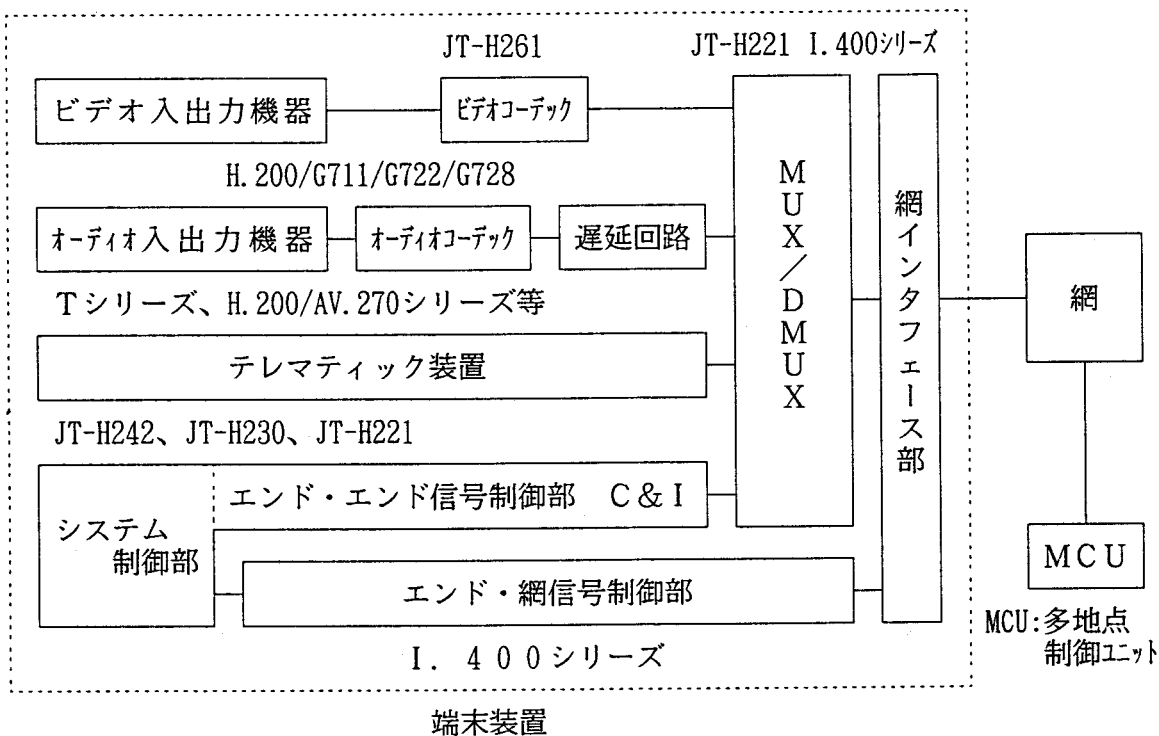


図2.1 テレビ電話・会議システム

2.2 網へ接続するための条件

2.2.1 網へ接続するための条件

本試験はNTT INSネット64及びINSネット1500に接続して実施するため以下の条件を満足することを前提とする。

(1) INSネットインターフェース関連

「NTT技術参考資料 INSネットサービスのインターフェース」

第1分冊 平成5年 1月 4日改訂（第6版）

第2分冊 平成5年 1月 4日改訂（第3版）

第3分冊 平成4年10月 1日改訂（第3版）

2.2.2 網へ接続するための諸手続

(1) INSネットに接続して試験を実施する端末は、以下のいずれかの認可を終了しておくこと。

① （財）電気通信端末機器審査協会の「技術的条件適合認定」

② NTTの適合検査

(2) T点以外の接続分岐点を有する機器については、別途協議の上実施する。

2.3 事前確認試験

相互接続試験に参加する端末は、事前にINSネットに接続し、以下の項目について自社端末相互間で正常動作することを確認しておくこと。

① 3.5節に規定される試験項目

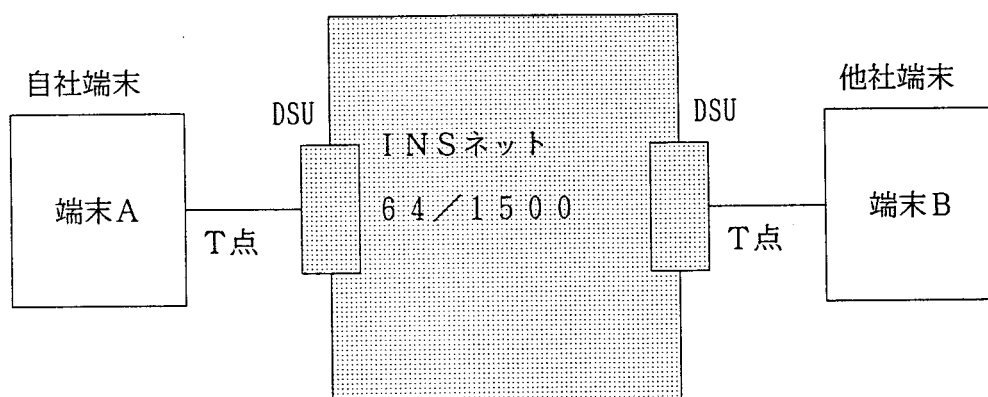
② 通信中、任意のタイミングにてシーケンスAを受信し、規定の処理を実施し、これに応答出来ること。この際、むやみに障害と判断し回復不能な状態に陥らないこと。

第3章 相互接続試験の実施方法

3.1 試験環境

- (1) 試験回線としてはINSネット64を用いるため、少なくとも試験当日は各参加者の試験実施場所においてこれにアクセス出来ること。また、Type Yの端末の試験に参加を希望する場合には、参加希望者はINSネット1500にアクセス出来ること。
- (2) 試験における回線との接続を下図に示す。

<接続試験のシステム>



- (3) 試験回線には試験に供する端末のみ1台に限って接続する。
- (4) 連絡用電話を用意すること。

3.2 実施方法

- (1) 複数社が合同で試験を実施する場合

① 各社機種総当たりとする。

ただし、1社で複数機種参加の場合には、原則的にこれらの機種間の相互接続試験は参加者の責任において既に完了しているものとする。

② 試験は3.5節に示す項目について行う。

- (2) 単独の場合は相互接続試験実施済の機種と個別に試験を実施する。

3.3 試験手順

- (1) 発信者は着信者に電話（スピーカーフォン等）連絡し、試験の開始を伝える。原則として試験中は電話は接続したままとする。
- (2) 発信端末は着信端末の試験用 I S D N 電話番号へ発信する。
- (3) 正常に着信しない場合には3回まで再発呼する。着信できない場合には(7)の手順を行う。
- (4) 着信端末は、着信確認後別紙1の項目により応答して相手の音声・画像・データ（試験項目に含む場合）が正常に受信出来ることを確認する。
- (5) 通信が少なくとも3分間継続し、所定の試験項目が全て終了したことを確認のうえ、着信者は発信者より先に切断する。
- (6) 発信者は正常に切断されることを確認する。
- (7) 発信者と着信者を入れ替え、上記(2)から(6)の手順を繰り返す。
- (8) 発信と着信の両端末の同一の組合せであって異なる通信速度での試験を続けて実施する場合、通信速度は低速からはじめて高速に移行するものとする。
- (9) 参加1社当たり複数の機種について試験する場合、上記の手順を各機種について繰り返す。

3.4 試験結果のとりまとめ

試験終了後は着信側での確認結果を別紙1のチェックシートに記入し連絡する。

なお、試験の再実施を希望する場合には、その旨をチェックシートMEMO欄に記述する。

3.5 試験項目

「ガイドライン（TTC-G-001-V1）」においては、端末Type X b 4, X b 5、オプションとして端末Y 1について音声、画像のみで且つ通信途中でのモード変更を伴わない条件で試験項目を規定したが、本「ガイドライン（端末編）」においては、ガイドライン（TTC-G-001-V1）に対して機能が向上した端末を想定し、これに対する試験項目を以下に規定する。

以下に示す試験項目について、全ての項目あるいは全ての組み合わせについての確認は必ずしも要しない。

但し、試験においては、

- 1) 受信側での必須ループバックコマンド、
- 2) 16 kbit/s音声符号化(JT-G728) : 該当機種のみ、
- 3) 通信中最低1回の通信モード変更(転送レート変更は含まない)、

等の使用あるいは実行により、設定された転送レートにおける音声・画像・データ(試験項目に含む場合)のビット配分が変化するように、いずれかの動作モードの変更を実行するものとする。3)の実現手段として、音声モード変更やLSDのオン/オフの実行が期待される。

(その他の機能の試験については、参考のため一部を3.6節に記述している。)

参考のため、各通信モードでのビットアサインを付録1に、アンケート用紙を付録2に、供試端末一覧表を付録3に、試験時間と対向機種についての表を付録4に示す。

(1) Type X

端末Type Xa, Xb1, Xb2/3, Xb4, Xb5相当について、次の各項目の動作の確認を別紙1を用いて行う。

この動作は、ガイドライン(TTC-G-001-V1)に対して音声符号化JT-G728の機能が追加された場合に相当する。

① アウトバンド信号による呼設定の確認

第1チャンネルの接続および受信能力に適合した転送レートによる付加チャンネルの接続を確認する。

② オーディオ・ビデオ通信の確認

受信能力に適合したモードによるオーディオとビデオ通信を確認する。

③ 通信モード切り替え

オーディオ・ビデオ通信中にモード切り替えの確認を行う。ここでは必ずしも転送レートの変更を伴う必要はない。

- ・通信モード変更 : a0, a1, b1, b2, b3の通信モードの切り替えを受信能力に適合した範囲で切り替え、正常な通信が可能であることを確認する。

- ・画像フォーマット変更 : Q C I FおよびF C I Fの間でフォーマットを変更し、正常な通信が可能であることを確認する。

④ データ送受信確認

受信能力に適合した速度で、データ送受信の確認を行う。(他社装置間でデータ内容の確認は必須ではないが、適当な手段で確認することが好ましい。)

- ・低速データLSD ON/OFFによるデータ送受信の確認。
- ・高速データHSD ON/OFFによるデータ送受信の確認。

⑤ 必須ループバックコマンドの確認

メンテナンスコマンドによりループバックの確認を行う。

- ・デジタルループ要求LCDによるループバックの確認。
- ・ループオフ要求LCOにより通常状態に回復することの確認。

⑥ 転送レート変更

$n \times B$ 、 $m \times H 0$ 等の転送レートの変更が可能な端末は、チャンネルの追加あるいは削除を行い、正常な通信が可能であることを確認する。

⑦ 静止画伝送

J T - H 2 6 1 付属資料Dに基づき静止画を伝送した後、相手側で正常な静止画を受信し、且つ正常な通信が再開されることを確認する。

⑧ 呼切断確認

第1チャンネル及び付加チャンネルが使用されている場合には付加チャンネルも正常に切断されることを確認する。

(2) Type Y

端末Type Y1 相当について、Type X端末と同様(但し、付加チャンネルの設定は除く)に動作の確認を行う。音声はJ T - G 7 2 2を基本とする。

3.6 オプション試験項目(参考)

お互いが能力を有していることが判明している端末間においては、より高度な接続性の試験を行うことが望ましい。

試験項目としては以下が考えられる。これらの実施については今後の端末能力の向上と密接に関係することにより、要望が出た時点で検討するものとする。

- (1) 多地点通信関連のコマンド
 - ・多地点対応機能 (MCS/MCN, MCC等)
 - ・必須受信コマンド (VCF, VCU)
- (2) Type X 端末の動作確認
 - Type Xq1, Xq2/3, Xq4, Xq5
- (3) Type Y 端末の動作確認
 - Type Y2, Y3, Y4, Y5
- (4) Type Z 端末の動作確認
 - Type Z α , Z β
- (5) A 則発信・ μ 則受信モード、A 則発信・A 則受信モード
(国内で使用する端末では不要)
- (6) 56 kbit/sモードの相互通信
(相手が56 kbit/sの回線でない場合、国内における標準的な端末はこのモードの動作をしないので、試験方法検討要)
- (7) 必須でないメンテナンスコマンド
 - (受信側) LCA/LCV
 - (送信側) AIM/AIA/VIS/VIA

第4章 結果の取扱と今後の検討課題

4.1 結果の取扱

受験者は、良好な結果を修めた場合、本試験の結果を用い「TTC標準準拠確認制度」に基づいてTTCに届け出ること、TTCマークの貼付又は取扱書への表示が可能になる。

なお、試験により確認された標準規定内容の問題等については、適宜標準化活動へのフィードバックに活用される。

4.2 今後の検討課題

以下については、本「端末編」では含まれていないことから、今後次版以降又は別編の作成時において標準化の状況や製品化の状況を踏まえ再度検討する必要がある。

- (1) 多地点通信機能
- (2) チャネルアグレゲーション関連機能
- (3) 機密保持・鍵管理方式
- (4) テレマティック装置関連機能
- (5) BC, HLC, LLCに関連する事項
- (6) Type Xbにおける片チャンネル異常時処理

今回のガイドライン見直しに当たっては端末的側面を対象を絞って「端末編」としたことにより、上記の技術項目のうちの幾つかは「端末編」とは別にガイドラインを制定する方が適当と思われる。例えば、多地点通信機能は、本「端末編」の試験対象端末を複数個同時に使用する応用的側面を持っており、また、チャネルアグレゲーション関連機能は端末の外部に接続して使用する付加的側面を持っているため、「端末編」には含めず別に制定する方が自然であろう。

これに対して、上記(3)～(6)の機密保持・鍵管理、テレマティック、BC, HLC, LLC、片チャンネル異常時処理、等については本「端末編」対象の端末内に含まれる機能であると見なすことが出来るので、独立したガイドラインとする必要性は必ずしもない。

送付先 _____ 殿

F A X _____

機種名	
会社/機関名	
担当者	
T E L	
F A X	

チェックシート

試験日時 [199 年 月 日 : ~ :]

[端末 B]

相手機種名 [_____]

試験項目リスト

項番	項目	判定基準	結果 (○または×)	備考(問題点等)
1	発呼	第1チャンネル呼設定	端末Aより端末Bに対し正常に発信できること。	
2		付加チャンネル呼設定	端末B電話番号 <input type="text"/>	
3		オーディオ通信の確認	各モードで音声とビデオの通信を確認する。	
4		ビデオ通信の確認	確認したモードを記録する。	
5		LSD開設の確認	LSD能力がある場合の開設を確認する。	<input type="checkbox"/> kbit/s <input type="checkbox"/> kbit/s
6		HSD開設の確認	HSD能力がある場合の開設を確認する。	<input type="checkbox"/> kbit/s <input type="checkbox"/> kbit/s
7		ループバックコマンド(発信)	ループバックコマンドによる試験を確認する。	<input type="checkbox"/> L C D <input type="checkbox"/> L C O <input type="checkbox"/> L C A <input type="checkbox"/> L C V
8		相手切断	相手切断に対して正常に切断されること。	
9	着呼	第1チャンネル呼設定	端末Bの発信に対し、正常に着信できること。	
10		付加チャンネル呼設定	端末A電話番号 <input type="text"/>	
11		オーディオ通信の確認	各モードで音声とビデオの通信を確認する。可能な場合は確認したモードを記録する。(注)	
12		ビデオ通信の確認		
13		LSD開設の確認	LSD能力がある場合の開設を確認する。	<input type="checkbox"/> kbit/s <input type="checkbox"/> kbit/s
14		HSD開設の確認	HSD能力がある場合の開設を確認する。	<input type="checkbox"/> kbit/s <input type="checkbox"/> kbit/s
15		ループバックコマンド(受信)	ループバックコマンドによる試験を確認する。	<input type="checkbox"/> L C D <input type="checkbox"/> L C O <input type="checkbox"/> L C A <input type="checkbox"/> L C V
16		自切断	自切断に対して正常に切断できること。	

- MEMO -

.....

.....

.....

.....

付録1 ビットアサイン

a 0モードのフレーム構成

音声 : JT-G711 μ 則 ; 5.6 kbit/s

Bit No. 8のOct. No. 17~80は空き

FAS+BAS : 1.6 kbit/s

Oct. No.	Bit No.								
	1	2	3	4	5	6	7	8	
1	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	FAS	
2	A8						A14		
⋮	⋮						⋮		
8	⋮						⋮		
9	A57	A58	A59	A60	A61	A62	A63		BAS
10	⋮						⋮		
16	A106	A107	A108	A109	A110	A111	A112		
17	A113	A114					A119		空き
18	A120						A126		
⋮	⋮						⋮		
⋮	⋮						⋮		
80	A554	A555	A556	A557	A558	A559	A560		

a 1モードのフレーム構成

音声 : JT-G728 ; 1.6 kbit/s

ビデオ : JT-H261 ; 46.4 kbit/s

FAS+BAS : 1.6 kbit/s

Oct. No.	Bit No.							
	1	2	3	4	5	6	7	8
1	A1	A2	V1	V2	V3	V4	V5	FAS
2	A3	A4	V6				V10	
⋮	⋮						⋮	
8	A15	A16	V36				V40	
9	A17	A18	V41	V42	V43	V44	V45	BAS
10	⋮						⋮	
16	A31	A32	V76	V77	V78	V79	V80	
17	A33	A34	V81	V82	V83	V84	V85	V86 V92 ⋮ ⋮
18	A35	A36	V87					
⋮	⋮						⋮	
80	A159	A160	V459	V460	V461	V462	V463	

b1モードのフレーム構成

音声 : JT-G711 μ 則 ; 56 kbit/s

ビデオ : JT-H261 ; 68.8 kbit/s

FAS+BAS : 各Bチャンネル

Oct. No.	第1チャンネル							付加チャンネル						
	1	2	3	..	6	7	8	1	2	3	..	6	7	8
1	A1	A2	A3	..	A6	A7	F	V1	V2	V3	..	V6	V7	F
2	A8					A14	A	V8				V14	V14	A
·	·					·	S	·				·	·	S
8	·					·		·				·	·	
9	A57	A58	A59	..	A62	A63	B	V57	V58	V59	..	V62	V63	B
10	A64					A70	A	V64				V70	V70	A
·	·					·	S	·				·	·	S
16	A106	A107	A108	..	A111	A112		V106	V107	V108	..	V111	V112	
17	A113	A114	A115	..	A118	A119	V113	V114	V115	V116	..	V119	V120	V121
18	A120					A126	V122	V123				V129	V129	V130
·	·					·	·							·
·	·					·	·							·
80	A554	A555	A556	..	A559	A560	V680	V681	V682	V683	..	V686	V687	V688

b2モード(その1)のフレーム構成

音声 : JT-G722 ; 56 kbit/s

ビデオ : JT-H261 ; 68.8 kbit/s

FAS+BAS : 各Bチャンネル

Oct. No.	第1チャンネル							付加チャンネル						
	1	2	3	..	6	7	8	1	2	3	..	6	7	8
1	A1	A2	A3	..	A6	A7	F	V1	V2	V3	..	V6	V7	F
2	A8					A14	A	V8				V14	V14	A
·	·					·	S	·				·	·	S
8	·					·		·				·	·	
9	A57	A58	A59	..	A62	A63	B	V57	V58	V59	..	V62	V63	B
10	A64					A70	A	V64				V70	V70	A
·	·					·	S	·				·	·	S
16	A106	A107	A108	..	A111	A112		V106	V107	V108	..	V111	V112	
17	A113	A114	A115	..	A118	A119	V113	V114	V115	V116	..	V119	V120	V121
18	A120					A126	V122	V123				V129	V129	V130
·	·					·	·							·
·	·					·	·							·
80	A554	A555	A556	..	A559	A560	V680	V681	V682	V683	..	V686	V687	V688

b 2モード (その2) のフレーム構成

音声 : JT-G 7 2 2 ; 4 8 kbit/s

ビデオ : JT-H 2 6 1 ; 7 6.8 kbit/s

FAS+BAS : 各Bチャンネル

Oct. No.	第1チャンネル							付加チャンネル						
	1	2	3	..	6	7	8	1	2	3	..	6	7	8
1 2 . 8	A1 A7 . .	A2 . .	A3	A6 A12 . .	V1 V9 . .	F A S	V2 V10 . .	V3 V11 . .	V4 V12	V7 V15 . .	V8 V16 . .	F A S
9 10 . 16	A49 A55 . .	A50 . .	A51	A54 A60 . .	V65 V73 . .	B A S	V66 V74 . .	V67 . .	V68	V71 . .	V72 V80 . .	B A S
17 18 . . 80	A97 A103 . . .	A98 . .	A99	A102 A108 . . .	V129 V139 . .	V130 V140 . .	V131 V141 . .	V132 . .	V133	V136 . .	V137 V147 . .	V138 V148 . . .
	A475	A476	A477	..	A480	V759	V760	V761	V762	V763	..	V766	. 67	V768

b 3モードのフレーム構成

音声 : JT-G 7 2 8 ; 1 6 kbit/s

ビデオ : JT-H 2 6 1 ; 1 0 8.8 kbit/s

FAS+BAS : 各Bチャンネル

Oct. No.	Bit No.							付加チャンネル						
	1	2	3	4	..	7	8	1	2	3	..	6	7	8
1 2 . 8	A1 A3 . A15	A2 A4 . A16	V1 V13 . .	V2 V14	V5 V17 . .	F A S	V6 V18 . .	V7 V19 . .	V8 V20	V11 V23 . .	V12 V24 . .	F A S
9 10 . 16	A17 . . .	A18 . .	V97 . .	V98	V101 . .	B A S	V102 . .	V103 . .	V104	V107 . .	V108 . .	B A S
17 18 . . 80	A33 A35 . . .	A34 A36 . .	V193 V207 . .	V194	V197 . .	V198 V212 . .	V199 V213 . .	V200 . .	V201	V204 . .	V205 V219 . .	V206 V220 . . .
	A159	A160	V1075	V1076	..	V1079	V1080	V1081	V1082	V1083	..	V1086	V1087	V1088

試験に供する端末の能力に関するアンケート用紙

項 目	端 末 能 力	
オーディオ	<input type="checkbox"/> A 則 <input type="checkbox"/> J T - G 7 2 8 <input type="checkbox"/> J T - G 7 2 2 - 4 8 k	<input type="checkbox"/> μ 則 <input type="checkbox"/> J T - G 7 2 2 - 5 6 k
画像フォーマット 受信	<input type="checkbox"/> Q C I F / F C I F	<input type="checkbox"/> Q C I F
最小画面間隔 (受信)	<input type="checkbox"/> 1 / 29.97 秒 <input type="checkbox"/> 3 / 29.97 秒	<input type="checkbox"/> 2 / 29.97 秒 <input type="checkbox"/> 4 / 29.97 秒
転送レート	<input type="checkbox"/> 6 4 kbit/s <input type="checkbox"/> 3 8 4 kbit/s	<input type="checkbox"/> 2 × 6 4 kbit/s <input type="checkbox"/> その他
画像フォーマット 送信	<input type="checkbox"/> Q C I F / F C I F	<input type="checkbox"/> Q C I F
最小画面間隔 (送信) (注 2)	<input type="checkbox"/> 1 / 29.97 秒 <input type="checkbox"/> 3 / 29.97 秒 <input type="checkbox"/> 5 / 29.97 秒 <input type="checkbox"/> 7 / 29.97 秒	<input type="checkbox"/> 2 / 29.97 秒 <input type="checkbox"/> 4 / 29.97 秒 <input type="checkbox"/> 6 / 29.97 秒 <input type="checkbox"/> その他
L S D 送受信	<input type="checkbox"/> _____ kbit/s <input type="checkbox"/> _____ kbit/s	<input type="checkbox"/> _____ kbit/s <input type="checkbox"/> _____ kbit/s
H S D 送受信	<input type="checkbox"/> _____ kbit/s <input type="checkbox"/> _____ kbit/s	<input type="checkbox"/> _____ kbit/s <input type="checkbox"/> _____ kbit/s
ループバック コマンド (受信)	<input type="checkbox"/> L C A <input type="checkbox"/> L C D	<input type="checkbox"/> L C V <input type="checkbox"/> L C O
ループバック コマンド (送信)	<input type="checkbox"/> L C A <input type="checkbox"/> L C D	<input type="checkbox"/> L C V <input type="checkbox"/> L C O
その他	<input type="checkbox"/> J T - H 2 6 1 付録 D (静止画伝送)	

(注 1) 上記表中記載の能力について通信不可となる組み合わせがあればその旨注記すること。

(注 2) 最小画面間隔 (送信) については : わかる範囲で記入すること。Q C I F / F C I F との対応が書ける場合はフレームレートの右側に Q または F と記入のこと。

付録3 (サンプル)

第 回 デジタルテレビ電話・会議相互接続試験・供試端末一覧表

会社名	タイプ	端 末	試 験 時	所 属	電 話 番 号	備 考
機種名		接続番号	連絡番号	担 当 者	F A X 番 号	
ABC社	Xa Xb4 Xb5	03-3XXX- ZZZZ	03-3XXX- ZZZX	XXX部 ZZZ課	03-3YYY-YYYY	LSD= ____, ____, ____,
CODEC-1				□□ □□	03-3ZZZ-XXXX	
XYZ社	Xa Xb4 Xb5 Y1	0X-XXXX- YYYY	0X-XXXX- YYYZ	YYY部 XXX課	0X-YYYY-ZZZZ	LSD= ____, ____, ____,
CD-XXX				○○ ○○	0X-YYYY-XXXX	

試験時間と対向機種 (試験実施日: X月XX日)

Type X

当初着信端末

当初着信端末

会社名 機種名	ABC社 CODEC-1	XYZ社 CD-XXX	XYZ社 CD-YYY		備考
ABC社 CODEC-1	—	9:00-10:30	10:30-12:00		QCIFのみ試験
	—	Xa(a ₀) Xb4(b ₁) LSD2400 Xb5(b ₂) LSD1200			
XYZ社 CD-XXX	9:00-10:30	—			
	Xa(a ₀) Xb4(b ₁) LSD4800 Xb5(b ₂) LSD2400	—			
XYZ社 CD-YYY	10:30-12:00		—		QCIFのみ試験
	Xa(a ₀)		—		
				—	
				—	

上段: 時間を示す。

試験時間と対向機種 (試験実施日: X月XX日)

Type Y

当初着信端末

当初着信端末

会社名 機種名	ABC社 CODEC-2	XYZ社 CD-XXX	UUU社 D-YYY		備考
ABC社 CODEC-2	—	13:00-14:00	14:00-15:00		
	—	Y1(g) LSD4800	Y1(g) LSD1200 HSD		
XYZ社 CD-XXX	13:00-14:00	—	15:00-16:00		
	Y1(g) LSD4800	—	Y1(g)		
UUU社 D-YYY	14:00-15:00	15:00-16:00	—		QCIFのみ試験
	Y1(g) LSD1200 HSD		—		
				—	
				—	

上段: 時間を示す。

●本ガイドラインの使用にあたっては、内容の変更の有無についてお尋ね下さい。

TTC相互接続試験実施ガイドライン

デジタルテレビ電話・会議相互接続試験実施ガイドライン 一端末編

1994年 4月 7日 発行

定価 3,400円(本体価格)
(消費税 102円別)

発行所 社団法人電信電話技術委員会

〒105 東京都港区浜松町1-2-11

浜松町鈴木ビル2F

TEL (03)3432-1551 , FAX (03)3432-1553

